

令和元年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 1			<教務部>																								
	生徒	保護者	教員																								
	あなたは、朝の基礎学習に取り組んで学力が ついてきている。	-	生徒は、朝の基礎学習に取り組んで学力が ついてきた。																								
結果	<table border="1"> <caption>調査結果 (意識調査No. 1)</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>2%</td> <td>74%</td> <td>19%</td> <td>0%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>34%</td> <td>49%</td> <td>16%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>34%</td> <td>49%</td> <td>16%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A	B	C	D	無回答	教員	2%	74%	19%	0%	5%	保護者	34%	49%	16%	1%	0%	生徒	34%	49%	16%	1%	0%
対象者	A	B	C	D	無回答																						
教員	2%	74%	19%	0%	5%																						
保護者	34%	49%	16%	1%	0%																						
生徒	34%	49%	16%	1%	0%																						
原因 及び 反省	<p>○昨年度の生徒の回答と比較すると、A・Bの合計が65%→82%と17ポイント増加した。今年度よりプリントの提出を課した結果、真面目に取り組む生徒が増えた事が考えられる。</p>																										
改善策	<p>○取り組み結果は良好であったため、今後も継続して指導していく。しかし、提出を求めることで取り組みの状況は改善されたが、自主的に学習する態度を育てていくことも必要である。</p>																										

意識調査No. 2			<教務部>																								
	生徒	保護者	教員																								
	あなたは、家庭で勉強をしている。	お子さんは、家庭で勉強をしている。	あなたは、家庭で学習できる指導をしている。																								
結果	<table border="1"> <caption>調査結果 (意識調査No. 2)</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>5%</td> <td>56%</td> <td>35%</td> <td>0%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>9%</td> <td>35%</td> <td>47%</td> <td>8%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>10%</td> <td>27%</td> <td>54%</td> <td>9%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A	B	C	D	無回答	教員	5%	56%	35%	0%	5%	保護者	9%	35%	47%	8%	0%	生徒	10%	27%	54%	9%	0%
対象者	A	B	C	D	無回答																						
教員	5%	56%	35%	0%	5%																						
保護者	9%	35%	47%	8%	0%																						
生徒	10%	27%	54%	9%	0%																						
原因 及び 反省	<p>○学年別の結果を比較すると、学年が上がるにしたがってC・Dの割合が増加している。しかし、Aの割合は2・3年生の方が大きく、学習の目的が明確な生徒は家庭学習を重視し、目的を見いだせない生徒は家庭学習の意味を見いだせない結果だと考えられる。</p> <p>○2, 3年生は学校で課題に取り組む生徒も少なくない。それも上級生のC・Dの割合が大きい一因である。</p>																										
改善策	<p>○進路目標の早期決定や、資格取得など、学習する目的を明確にする指導を行うことで家庭学習を促す。</p> <p>○家庭での学習習慣が身に付いていない生徒については、学習支援員と連携し、放課後に学習する機会を作る。</p>																										

令和元年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 3		<教務部>	
	生徒	保護者	教員
	先生方はわかりやすい授業の工夫をしている。	あなたは、授業参観の機会があれば参加したいと思っている。	あなたは授業の工夫改善に努めている。
結果	教員	保護者	生徒
	A, 47%	A, 30%	A, 27%
	B, 49%	B, 47%	B, 59%
	C, 0%	C, 20%	C, 13%
			D, 2%
			無回答, 0%
			D, 2%
	0%	10%	20%
	30%	40%	50%
	60%	70%	80%
	90%	100%	
原因及び反省	<p>○昨年度同時期のアンケートでは生徒のA, B合わせた回答が76%、今年度は86%と約10ポイント増加した。各教員が生徒重視の授業を心がけている結果である。</p> <p>○C・Dの合計も15%で決して低くはない数字である。特に学習にあたって支援が必要な生徒に十分な援助ができない部分もあった。</p>		
改善策	<p>○担任、教科担当者、学習支援員の連携を強化する。特に支援が必要な生徒の情報交換や指導方法の共有化を図ることが必要である。</p>		

意識調査No. 4		<生徒指導部・保健部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、遅刻・欠席・早退をしないように心がけている。	あなたは、お子さんが遅刻・欠席・早退をしないように努めている。	あなたは、生徒が遅刻・欠席・早退をしないように指導している。
結果	教員	保護者	生徒
	A, 44%	A, 78%	A, 68%
	B, 51%	B, 20%	B, 22%
	C, 2%	C, 2%	C, 10%
			D, 0%
			D, 0%
			D, 0%
	0%	10%	20%
	30%	40%	50%
	60%	70%	80%
	90%	100%	
原因及び反省	<p>○教員及び保護者においては意識して指導している傾向が見られる。</p> <p>○大半の生徒は遅刻・欠席・早退しないように心がけて生活しているが、1割程度の生徒に関しては意識が低い。</p>		
改善策	<p>○家庭との連携、生徒指導部やHR担任との連携を図り、これまでに引き続き教員は意識をして、指導・助言をしていく。</p>		

令和元年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 5		<生徒指導部>		
		生徒	保護者	教員
		あなたは服装・頭髪など、自らの身だしなみを整えている。	学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。	学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。
結果	教員	A, 35%	B, 60%	C, 2% D, 2%
	保護者	A, 68%	B, 28%	D, 0% C, 4%
	生徒	A, 52%	B, 39%	無回答, 0% C, 9% D, 0%
原因及び反省	○教員及び保護者においては意識して指導している傾向が見られる。			
	○生徒に関しては自ら服装・頭髪を整えようと意識していない生徒が1割程度いる。			
改善策	○生徒が自ら服装・頭髪を整えようとする環境づくりを行う。 例として、教室に全身の写る鏡の設置など。			

意識調査No. 6		<生徒指導部・農業部>		
		生徒	保護者	教員
		あなたは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。	お子さんは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。	あなたは、生徒が部活動や農業クラブに積極的に参加して活動するように指導している。
結果	教員	A, 42%	B, 56%	C, 2% D, 0%
	保護者	A, 49%	B, 22%	C, 20% D, 9%
	生徒	A, 39%	B, 27%	無回答, 0% C, 30% D, 4%
原因及び反省	○昨年度と比較し、生徒が活動している割合が1割程度増加傾向にある。			
	○部活動で活動していない理由として、進路に関わるお金（自動車免許、進学費など）を工面するためにアルバイトを行う生徒も多くいる。このことから、この結果となっているのではないかと考えられる。			
改善策	○部活動やアルバイトなど、何もしていない生徒に対して、生徒指導部や農業部、HR担任により継続的に参加を呼びかける。 ○地区大会で得た賞状も表彰伝達するとよい。			

令和元年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 7		<生徒指導部・保健部>		
		生徒	保護者	教員
		あなたは、高校生活をとおして以前より自信が持てるようになった。	お子さんは、高校生活をとおして以前より自信を持つようになった。	生徒は、学校生活をとおして以前より自信を持つようになった。
結果	教員	A, 19%	B, 74%	C, 7% D, 0%
	保護者	A, 40%	B, 47%	C, 13% D, 0%
	生徒	A, 28%	B, 51%	C, 20% D, 2%
原因及び反省	○昨年同時期の調査と比べると、A、Bと答えた教員、生徒、保護者の数はほとんど変化がなかったが、生徒のポイントが+11となっており、生徒の自己肯定感(80%の生徒)が増している。			
改善策	○農業クラブの活動や農業実習などの実体験を通して、経験と実績を積み重ねる場面を多く設ける。 ○面談やカウンセリングなどの活用を推進するなど、一人一人に細やかな対応を図ることにより、自信を持っていない生徒(20%)の減少に努めていく。			

意識調査No. 8		<進路指導部>		
		生徒	保護者	教員
		あなたは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。	お子さんは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。	生徒は、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。
結果	教員	A, 26%	B, 58%	C, 14% D, 0%
	保護者	A, 34%	B, 41%	C, 24% D, 1%
	生徒	A, 44%	B, 42%	C, 13% D, 1%
原因及び反省	○生徒の8割以上は、卒業後の進路を考えているようだ。保護者も高い割合で生徒の卒業後の進路を考えている。しかし、見方を変えると4人に1人の保護者は、家庭において生徒と話をしていないともうかがえる。			
改善策	○3学年はもちろんのこと、1学年、2学年も保護者と教員の二者面談を行ってみる。そのことにより、保護者が本校の進路活動を理解し、家庭において生徒と話す機会が増えると思われる。			

令和元年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 9		<進路指導部>				
	生徒	保護者	教員			
	学校は、進路に関する情報を充分提供している。	学校は、進路に関する情報を充分提供している。	学校は、進路に関する情報を充分提供している。			
結果						
	教員	A, 47%	B, 47%	C, 7%	D, 0%	
	保護者	A, 23%	B, 54%	C, 21%	D, 2%	無回答, 0%
	生徒	A, 34%	B, 52%	C, 14%	D, 0%	
原因及び反省	<p>○Na. 8の結果と同様に、全体的に多くの教員と保護者は進路情報が十分提供されていると思っている。アンケートをとった時期 (6月) によるものと思うが、生徒の学年別の結果は、2学年で「C」が多い。また、保護者の「C」回答も多くなっている。</p>					
改善策	<p>○3学年で多く実施している保護者会を、1学年、2学年の段階でも多く取り入れる。特に、PTA総会するとき、3学年同様、2学年でも保護者会を企画すると、保護者にも進路情報が確実に伝わると思われる。</p>					

意識調査No. 10		<保健部・総務部・農業部>				
	生徒	保護者	教員			
	学校は、安全な学習環境づくりに取り組んでいる。	学校は安全な学習環境づくりに取り組んでいる。	学校は安全な学習環境づくりに取り組んでいる。			
結果						
	教員	A, 51%	B, 40%	C, 9%	D, 0%	
	保護者	A, 38%	B, 60%	C, 0%	D, 0%	無回答, 0%
	生徒	A, 34%	B, 51%	C, 14%	D, 0%	
原因及び反省	<p>○教員は取り組んでいると判断しているようであるが、保護者・生徒のとらえ方は、あてはまらないの回答が14%である。具体的には「危険である」と回答した意見があり、特に科目「総合実習」における学習内容があげられるのではないかと。 ○反省としては、生徒が危険と感じた学習内容の把握が不足していると考えられ、改善するべきである。 ○教室に冷房が入ったため、実験実習中の暑さとの差に順応できず、体調不良の訴えが増えたのではないかと。</p>					
改善策	<p>○生徒がとらえた学習環境上の危険性について、教員が認知できるよう、個別指導を徹底し、生徒の意見をすくい取ることが出来る工夫を探っていくことである。 ○実験実習施設への冷房装置・冷風装置の導入があつてよいと思われる。</p>					

令和元年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 11		<総務部・農業部>									
	生徒	保護者	教員								
	学校のホームページをよく見る。	学校のホームページをよく見る。	学校のホームページをよく見る。								
結果	教員										
	保護者										
	生徒										
		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%
原因及び反省	<p>○教員は、A・B合わせて半数以上が見ているが、保護者は半数以上が見ていない。生徒は24%しか閲覧していないことから、多くの生徒が見ていないといえる。</p> <p>○ホームページを見る手段の調査をしていないため、正しく判断できないが、保護者の具体的意見の中に「インターネット環境がない」「見方が分からない」という回答もあり、保護者世代のネットスキルの不足も原因の一つと考えられる。また生徒の具体的意見のほとんどが「興味がない」「見る必要がない」であることから、ホームページを誰に向けて発信すべきなのか、原点回帰が必要と思われる。</p>										
改善策	<p>○ホームページ更新を間断なく行うこと。</p> <p>○ホームページ更新を行うことができる教員を増やすこと。</p> <p>○学校ホームページ更新のための校内講習会を実施すること。</p> <p>○一斉メール送信システムのメッセージ機能を、より活用することも取り組みの一つと考えられる。</p>										